

平成 28 年度後期授業改善アンケート集計結果

2017 年 3 月 28 日
教務委員 京相 雅樹

1. データ概要

表 1 概要

集計科目数	22 科目 (H27:17 科目, H26:18 科目, H25:18 科目, H24:17 科目, H23:17 科目)
平均回収率	81.2% (登録者数に占める割合) (H27:64.3%)
実施日	2016 年 11 月 1 日～2017 年 1 月 23 日

2. 各項目の評価点

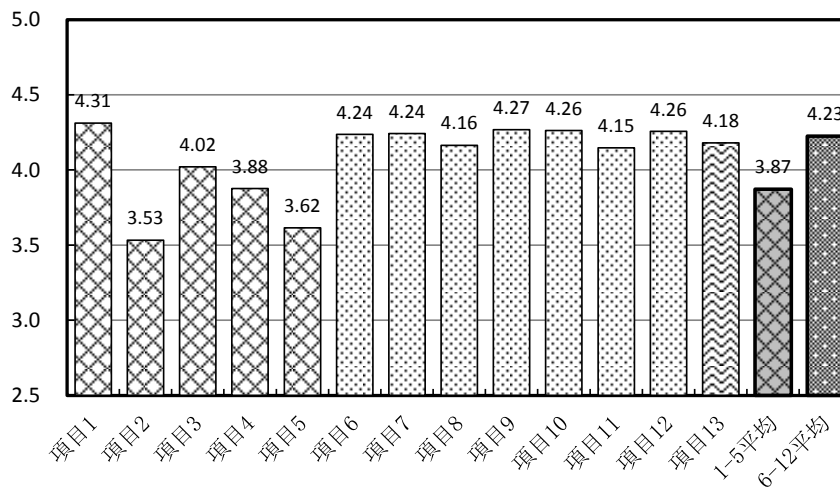


図 1 平均評価点

表 2 アンケート項目

●学生として
① この授業へは遅刻せず毎回出席しましたか。
② 予習や復習を十分に行いましたか。
③ この授業の内容に知的興味をもって参加できましたか。
④ この授業の内容はよく理解できましたか。
⑤ わからない部分があった場合、積極的に質問をしましたか。
●教員や授業の進め方について
⑥ 教員は十分な準備と熱意で授業を行いましたか。
⑦ 教員が授業で話す言葉は、明瞭で聞き取りやすかったですか。
⑧ 教員は授業中に学生の理解度を確認したり、質問を積極的に受け付けたりしましたか。
⑨ 教科書や配布資料、レポート、演習課題等は授業の理解に効果的でしたか。
⑩ 教員は黒板やプロジェクター、その他の設備を効果的に使い、授業の理解に役立ちましたか。
⑪ 教員は私語などの授業を妨害する不適切な行動をやめさせましたか。 教員はグループ内のメンバー全員が実習に参加するよう気を配っていましたか？【実習用】
⑫ この授業の展開は、授業計画(シラバス)に照らしてみても妥当なものでしたか。
●満足度、要望、その他
⑬ 自分の知識や能力の向上の見地から、この授業は満足のいくものでしたか。
⑭ 実習を行うにあたり、講義ですでに学んだ知識の必要性を感じましたか？【実習用】
⑮ 実習の内容を理解できたのはどの段階ですか？【実習用】
⑯ 実習装置、設備について、状態、使いやすさおよびサポート体制は全体的に見てどうでしたか？【実習用】

3. 科目ごとの評価点

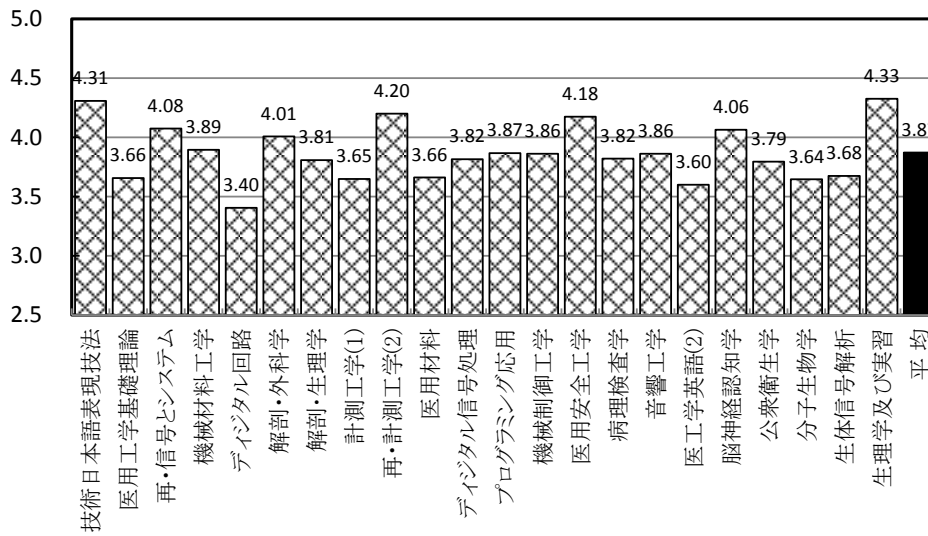


図2 学生に関する項目(項目 1-5)の平均

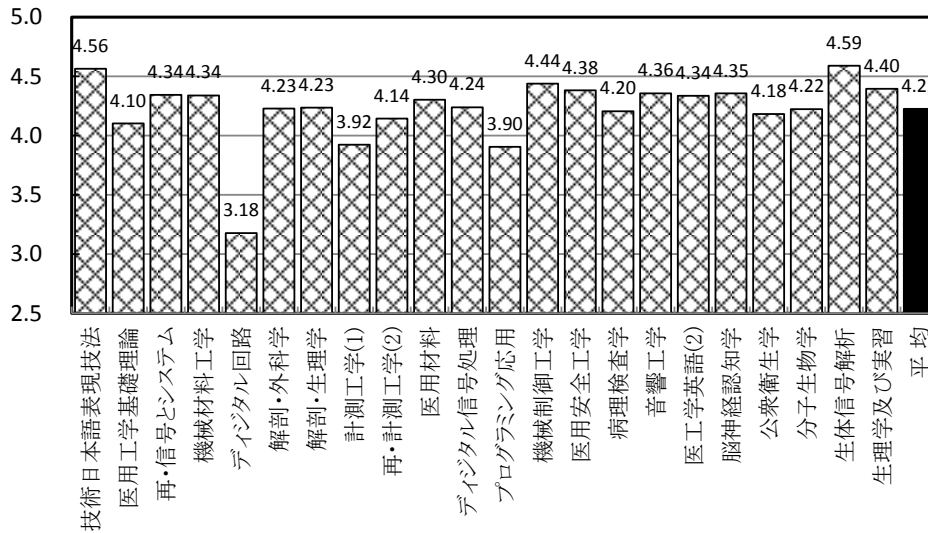


図3 教員に関する項目(項目 6-12)の平均

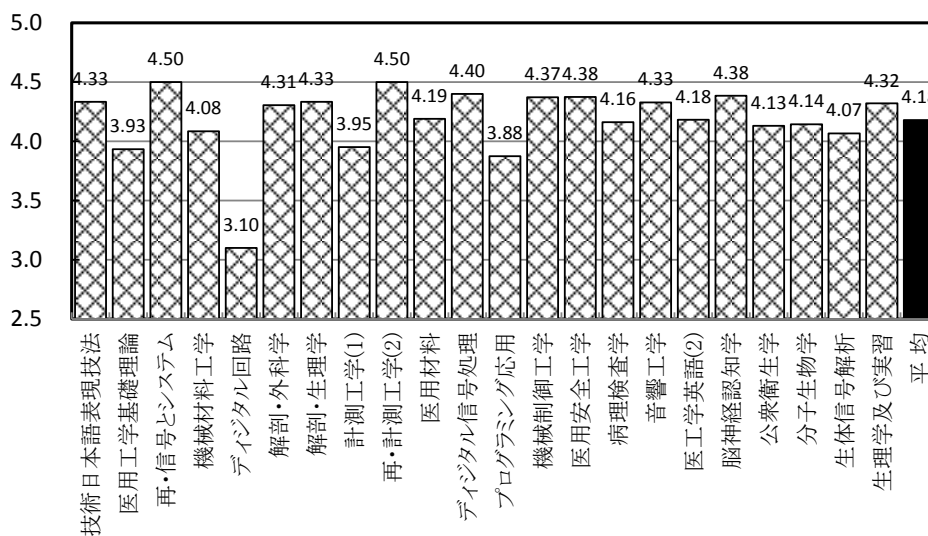


図4 満足度

4. 対応するアンケート項目の年次推移

表3 対応する項目の年次推移

	集計 科目数	学生 (1-5)	教員 (6-12)	①授業出 席	②予習復 習	③知的興 味	④理解	⑤質問	⑥準備・ 熱意	⑦聴き取 り易さ	⑧理解度 確認・ 質問受付	⑨配布資 料 レポ演習	⑩設備有 効利用	⑪授業妨 害防止	⑫授業計画	⑬満足度
2011年度後期	17	3.83	4.27	4.26	3.35		4.09	3.47	4.44	4.44	4.32		4.46	4.24	4.26	
2012年度後期	17	3.88	4.20	4.32	3.45		4.01	3.54	4.34	4.29	4.17		4.36	4.06	4.28	
2013年度後期	19	3.70	4.26	4.28	3.02	4.02	3.86	3.33	4.35	4.32	4.24	4.19	4.36	4.09	4.26	4.17
2014年度後期	18	3.67	4.15	4.31	2.99	3.95	3.73	3.38	4.22	4.18	4.12	4.16	4.25	4.01	4.12	4.08
2015年度後期	17	3.73	4.15	4.41	3.22	3.92	3.75	3.35	4.14	4.19	4.17	4.16	4.22	3.99	4.19	4.08
2016年度後期	22	3.87	4.23	4.31	3.53	4.02	3.88	3.62	4.24	4.24	4.16	4.27	4.26	4.15	4.26	4.18

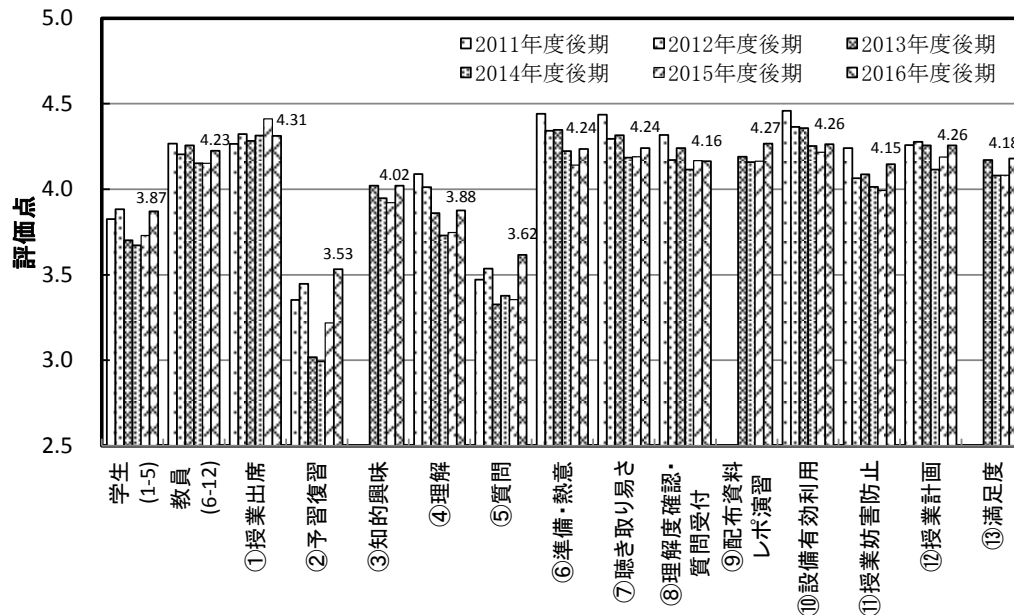


図5 対応する項目の年次推移

5. 各科目の改善に関する担当者のコメント

表4 各科目の改善に関する担当教員のコメント

科目名	学年	担当	コメント
技術日本語表現技法	1	京相	学生へのサポート情報や補助的説明が不足している点があるので改善したい。
医用工学基礎理論	1	桐生, 京相	より分かりやすい説明を目指して資料等の改善を行いたい。
再・信号とシステム	2	桐生	※ 今年度限りで閉講のためコメントなし
解剖・外科学	2	森	遅刻する学生が多いので授業の前後に小テストを導入します。
解剖・生理学	2	森	遅刻する学生が多いので授業の前後に小テストを導入します。
計測工学(1)	2	平田	配布資料と共に、動画も含めた視覚的学習を積極的に取り入れたい。さらに、理解度チェックのための小テスト(演習)についても工夫を行いたい。
再・計測工学(2)	2	平田	配布資料と共に、動画も含めた視覚的学習を積極的に取り入れたい。さらに、理解度チェックのための小テスト(演習)についても工夫を行いたい。
デジタル信号処理	2	桐生	今回は試みに数学的な説明だけでなく、実際のプログラム例を示して実装法を説明した。時間が許す限りこのような実装例を増やして行きたい。
プログラミング応用	2	京相	後半になると理解できなくなる学生が多いので、資料等のサポートを強化したい。
機械制御工学	2	和多田	授業の進め方、配布資料の内容を含め、学生の理解度が向上するように改善する。
生理学及び実習	2	桐生, 京相, 島谷, 小林	TAの教育や装置の整備など、スムーズな実習のための改善を行いたい。
病理検査学	3	仁木	予習復習レポートの提出率が悪いので、レポート提出を徹底したい。
音響工学	3	桐生	聴覚特性やヘッドホンなどで、実体験学習を入れており、授業アンケートのコメントを見る限り好評であった。このような試みを続け、理解の助けとしたい。
医工学英語(2)	3	京相, 桃沢	2回目の実施なので、内容的に改良すべきところが多いと思われる。取り上げるトピックが適切かなど、再度検討する必要がある。
脳神経認知学	3	島谷	授業の進行が後半遅れる傾向があったので授業内容を整理して改善したい。
分子生物学	3	小林	学生が予習復習を行いやすくなるよう、配布資料を工夫したい。
生体信号解析	3	京相	応用分野に関する科目であるので、応用事例や基礎分野との関係についてさらに充実させた内容にしたい。

6. データの概要と考察

平成 28 年度後期は 22 科目でアンケートを実施し、結果をまとめた。表 2 に示すように回収率は前年度より 17 ポイント程度向上している。図 1 より全般に「学生に関する項目」が「教員に関する項目」の平均値を下回っており、この傾向は例年と同様であった。図 2 より、「学生に関する項目」は個別に見ると科目ごとにその値がかなり異なっていることが分かる。これは、表 2 に示されたアンケート項目の②、⑤に関し、授業の実施に関して何らかの工夫を行っている科目で高くなっているものと考えられ、この項目に関する対応を強化することにより、平均値も向上させることができると考えられる。また「教員に関する項目」は平均値が 4 ポイント以上であり良好なレベルと思われるが、図 3 よりこちらも科目ごとにばらつきがあることが読み取れる。「良い授業」に向けて有効な工夫をしている科目の担当者のノウハウを共有するなどにより、改善する余地があると考えられる。図 4 の「満足度」については、「学生に関する項目」と「教員に関する項目」を改善することにより自然に向上すると考えられる。

表 3 および図 5 に示した、各項目の年次推移については、既に得点の高い項目については余り変化が認められないが、項目②、⑤については今年度改善が見られ、結果として「学生に関する項目」の平均値も昨年度より向上していることが分かる。特にこれら 2 項目については今後も継続的に向上のための改良を行っていくことが有効であると考えられる。

表 4 は、授業を運営、実施した結果を踏まえ、担当者が来年度の実施に向けてどのように改善してゆくかに関するコメントを科目ごとに集めたものである。表に挙げられている点を改善してゆくことにより、着実な授業改善が期待できる。